

駐日の大使夫人らの「花の先生」

ひと

あかい まさる
赤井 勝 さん(45)

駐日の各国大使夫人らに、フラワーアレンジメントを教えて10年になる。大阪から毎週のように東京に通い、あちこちの大使館の広間で教室を開いている。

大阪の知人のひとりがウクライナ名誉領事だった。その依頼でウクライナ大使夫人に教えたら、口コミで評判が広がった。いま参加国は約20カ国。米国、キューバ、イラク……政治や宗教で対立する国の夫人らも、笑顔で花を囲む。

自由に生けてもらい、身ぶり手ぶりの片言英語で助言する。おしゃべりの花が咲く。「花は世界の誰もが愛するもの。花を囲めば、みんな明るいおぼちゃんです」

大阪府南部の忠岡町出身。祖父は花の農家、父母は花屋。小学

生で生け花、中学でフラワーアレンジメントを学び、21歳で独立して大阪・ミナミで花屋を開いた。

花の見せ方に流儀はないという。ときに根までをむき出しにする大胆さが話題を呼び、プロ野球元オ릭スの清原和博選手の引退式の花束と花道も手がけた。

2年前、国情を越えた集いが評価されてローマ法王に謁見し、「私にも出来ない活動」と称賛された。東日本大震災後には避難所に花を届け、5月には事故から25

年のチェルノブイリで、小児がんの子どもに花束を渡して回った。

「花で平和の大切さを伝えていきたい。花の美しさを前に人は争わない。花の力を信じています」

文・後藤洋平 写真・池田 良

